

2023年度 高松協同病院 回復期リハビリテーション病棟 実績

	4月	5月	6月	7月	平均
平均在院日数(日)	75.3	70.3	70.2	66.6	70.4
在宅復帰率(自宅のみ)	69.7%	80.6%	81.5%	80.0%	77.7%
在宅復帰率(施設含む)	90.9%	90.3%	100.0%	90.0%	92.6%
単月実績指数	52.9	58.9	48.6	47.9	50.7
病棟職員数(常勤換算：人)	135.9	136.9	136.9	135.9	136.4

近年、医療機関でも「医療の質」を問われる時代です。回復期リハビリテーション病棟でも、短期間で集中的にリハを提供して身体機能や日常生活動作の回復・改善を図り自宅や施設に退院することができるよう支援することが求められます。それを数値化して客観的な評価ができるよう定期的の実績を出しています。これからも患者様ご本人や家族の方に満足していただけるよう、職員一丸となって頑張ります。

院長 北原孝夫

「高校生1日看護体験～夏を深めるコース～」

8月2日、3日に香川県内の高校生さんに看護師体験をしていただきました。

毎年香川医療生活協同組合看護部では学校が休み中に看護師体験を実施しています。コロナ禍でこの3年間は直接患者さまと触れ合うことができずWEB開催でしたが、久しぶりに対面での開催ができました。

当日は法人全体で46人の高校生が集まり、当院には2日間で18人来てくれました。簡単な説明の後、東西病棟に分かれて看護師体験の始まりです。足浴・手浴を看護師の指導のもとごちなく始めていましたが、少しずつ患者さまとの会話を楽しみながら行え、患者さまの「ありがとう」という言葉に感動している様子でした。また、血圧測定や脈、呼吸、聴診器で自分の心臓、呼吸音を聴くことも経験しました。

もともと看護師になりたいと思って参加してくれた皆さんでしたが、体験後に「やっぱり看護師になりたい」と思ってくれたようです。今回の体験が今後の進路を決める貴重な体験になったと感じています。

看護師体験をした高校生さんたちは、今は看護師のたまごのたまごですが、まず看護学校の受験を突破し、未来の看護師を目指して頑張ってもらいたいと思います。今回の経験を忘れず、患者さまに寄り添える看護師になれるよう願うとともに、いつか一緒に働ける日を楽しみに待ちたいと思います。



通所リハでの「特別食※1」「嚥下調整食※2」の提供について

通所リハでは、ご希望の利用者様に昼食の提供を行っています。病棟の食事と同じように、「日本人の食事摂取基準（2020年度版）」に基づき、各疾患ガイドラインの治療方針に則った栄養管理・給食管理を行っています。また、「日本摂食嚥下リハビリテーション学会2021」に対応した嚥下調整食の提供も可能となっております。退院時の食形態が「嚥下調整食」の患者様が増え、退院後の食事・栄養支援として、ST専任の当院通所リハでの「嚥下調整食」の提供は重要なポイントと捉えております。

さらに、リハ栄養の観点から1食あたりのエネルギーはもちろん、たんぱく質、ビタミンDなど筋力UPに必要な栄養素が充足できる献立作成を行っています。

季節感を大切にメニュー作りにも力を入れており、春は筍入りちらし寿司、夏は七夕そうめん、秋は栗ご飯、冬はしっぽくうどんなどを提供し、大変喜ばれております。

いつまでも楽しく食事を摂り、心身ともに健康で過ごしていただけるよう、管理栄養士による「栄養マネジメントサービス」「栄養改善サービス」の提供も実施しております。



七夕そうめん

※1 厚生労働大臣が定める特別食で通所リハで提供できる食種は、腎臓食、肝臓食、糖尿病食、胃潰瘍食、貧血食、脾臓食、脂質異常症食、痛風食です。

※2 日本摂食嚥下学会分類2021に則った嚥下調整食です。提供可能です。

病棟運動会

7月25日に病棟運動会が開催されました。玉入れ、景品つかみ競争、リレーと3種目をAチーム、Bチームに分けて行いました。玉入れでは用意の合図とともに参加者の目つきも変わり、必死に投げている方や普段以上に動きにキレが出ている方もいました。景品つかみ競争ではパン食い競争の要領で行い、ぶら下がった景品をつかみに移動し掴んだ後は笑顔が見られていました。最終種目のリレーではタスキをバトン代わりに使用し次の方に渡すまで必死に歩いている姿が見られました。みんなが一丸となって応援し転倒や体調不良者も出ず楽しい運動会となりました。



玉入れ



リレー

開院20周年記念行事開催の予定

2024年 **1/13(土)**
14:00～16:00

開催場所 穴吹学園ホール

記念講演 介護エンターテイナー
石田竜生 (いしだたつき)